

復旧復興を担い 成長目指す

建設産業



東京スカイツリーの展望台から。08年夏に建設を開始し
今月29日に完成する。オープンは5月22日の予定

海外事業の強化加速

昨年4—9月期 受注5.6%増

競争は激しく、価格勝負の
「たたき合い」再燃を懸念す
る向きもある。

円高の影響

一方、連結の売上高合計
は建設市場の縮小で手持ち
工事が減少していたため
同1・9%減の5兆152
1億円。規模別では大手が
同1・6%減の2兆785
1億円、準大手が同1・5
%増の1兆4519億円、
中堅が同7・8%減の91
50億円となった。大手は
微減、準大手は微増だが、
中堅は比較的大きい減少が
続き、二極化の様相を呈して
いる。

収益面では、11年4—9
月期における連結経常利益
は通算すると同41・1%減
の642億円で、売上高経
常利益率は同0・9%ダウ
ンした。

ところには震災復旧工事で技
能工不足が起こり、一部職
種で労働単価が上昇してい
ることも背景にある。

震災の復旧需要について
は国土交通省が昨年12月下
旬、11年度の建設投資見通
しを政府による3次補正予
算まで反映し前年度比13・
0%増の4兆4700億円
と上方修正しており、その
うち復旧・復興にかかわる
政府建設投資（公共事業）
は2兆4600億円上積み
の4兆8700億円、総額
に占める割合は約10・5%
となる。民間投資は11年4
—9月期の動向を踏まえ3
600億円上積みした。

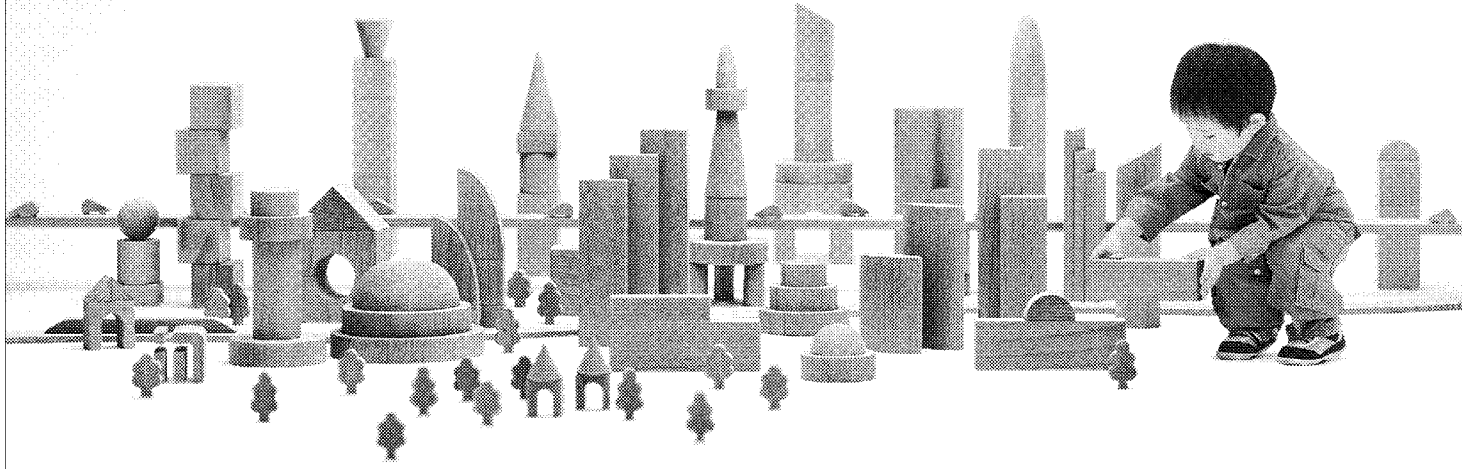
震災復旧・復興にかかわ
る政府建設投資4兆870
0億円は11年度の国内総生
産（GDP）を名目で1・
22%、実質で1・08%引き
上げ、全産業の生産誘発効
果は1・2%、円高の進行
に伴う為替差損が総計で約
119億円計上されており
、足かせとなっている。

しかし、建設業界では
「震災復旧・復興需要はこ
の先2—3年の一時的なも
の」という冷静な見方が大
勢。震災に続いて歴史的な
円高に見舞われ、製造業の
海外シフトが加速している
ことから、海外事業を強
化する動きが目立ってい
る。

インドに注目

シフト先は「世界の工場」
となった中国のほか、東南
アジア諸国が中心。中国の
日系ゼネコンでトップシェ
アを持つフジタの上田卓司
社長は「中国の市場性が高
まって食品や流通業なども
進出するようになり、ニー
ズに応えきれないこともあ
る」と語る。インドネシア
も日系自動車メーカーの展
開でサプライヤーが大挙し
て進出に動き、需要がゼネ
コンの施工能力を上回って
いる状況。同国には東急建
設が昨年3月、現地法人を
設立しているが「初年度の
受注目標を上半期で達成し
てしまった」（飯塚恒生社
長）という。

想像を、チカラに。

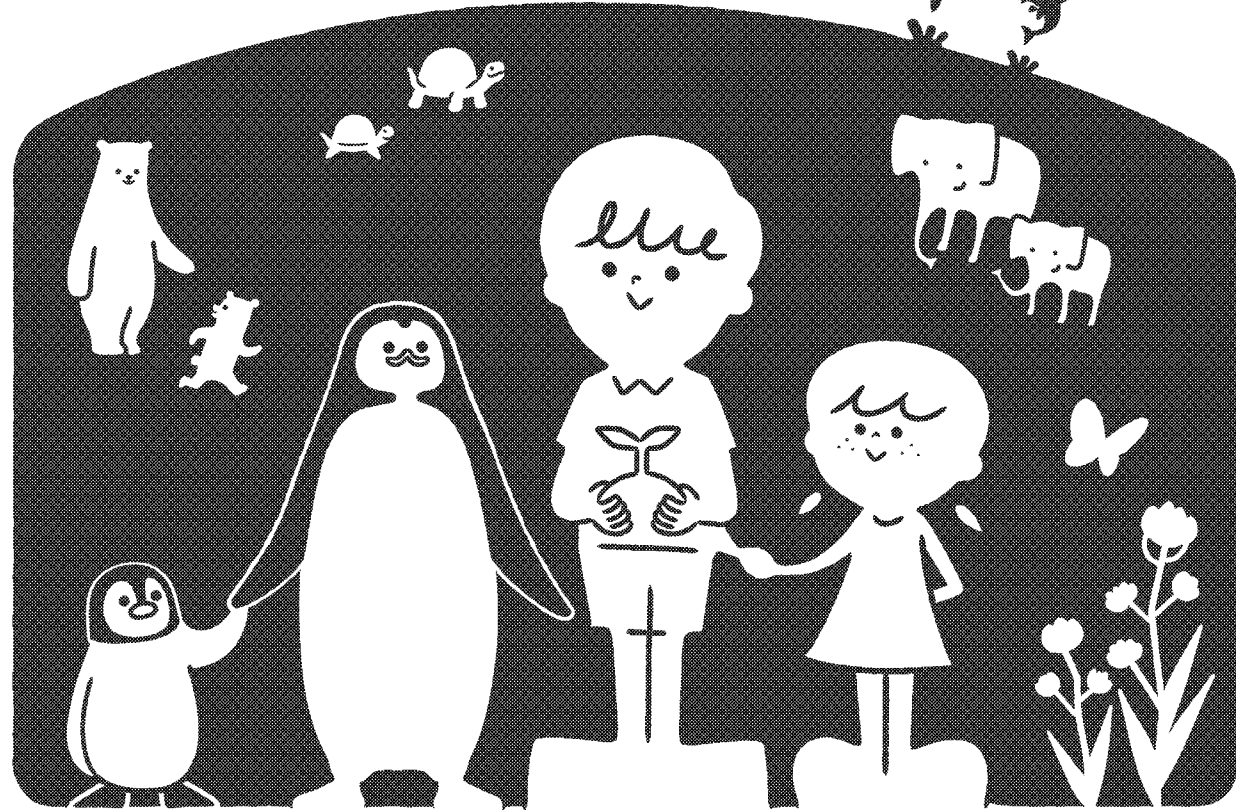
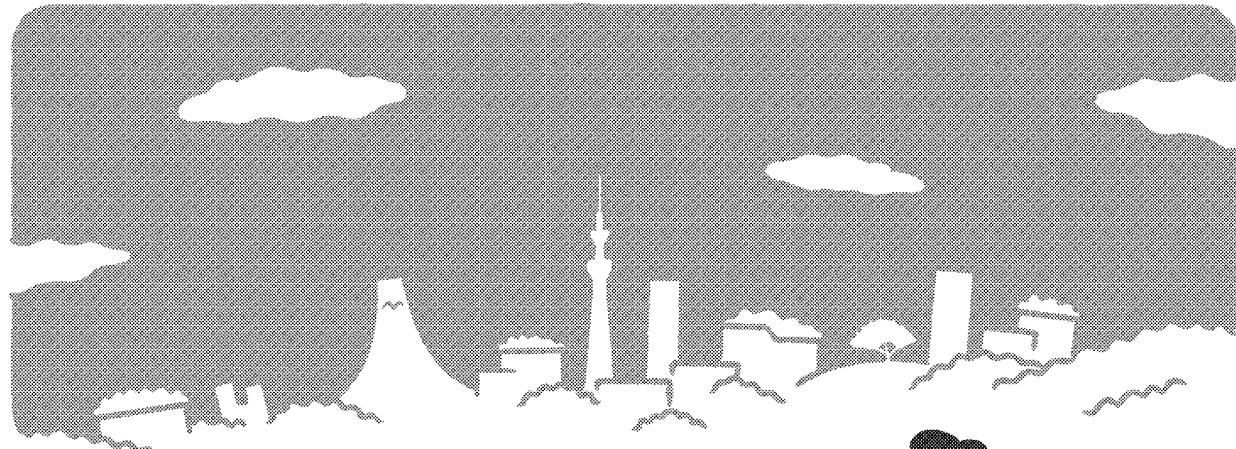


フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」

100年以上も前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのか問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえ困難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島



地球に笑顔を

北極や南極の動物たちも、大空を飛び鳥たちも、野に生い茂る草木も、花に集まる虫たちも、地球という家で、いっしょに暮らす大切な家族です。

わたしたち大林組も家族の一員として、地球環境のことや、そこに住むみんなのことを想いながら、ものづくりと自然との調和をめざしています。

みんなの明日を、笑顔で満たすために。



大林組